

第79回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成26年11月18日(火)～21日(金)

朱鷺メッセ (Plasma Conference 2014 展示会会場)

2. 来訪者: 30名程度

3. 説明概要:

日本原子力学会秋の大会 企業展示会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明及びITER機構職員募集を行った。

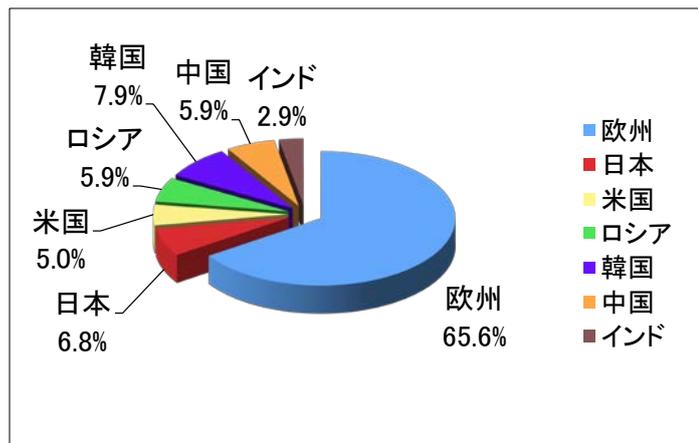
(ITER統合支援グループ 大原、ITER計画管理グループ 齋藤)

4. 主なQ&A

Q:現在のITER 機構職員数と、日本人の人数はどのくらいか。

A: 2014年10月末現在で、合計545名、そのうち日本人は29名です。

	専門職員	支援職員	合計
欧州	223	139	362
日本	23	6	29
米国	17	15	32
ロシア	20	10	30
韓国	27	5	32
中国	20	21	41
インド	10	9	19
合計	340	205	545



Q:日本からITERサイトまでのアクセスは？

A:パリやアムステルダム空港を経由し、マルセイユ空港へ、そこから車で2時間ほどの場所にITERサイトがあります。ITER 機構職員や出張者はエクサンプロバンスかマノスクに滞在し、そこから自家用車やITER 機構のバスで通勤しています。



Q:ITERとJT-60SAの関係は？

A:JT-60SAの目的は①ITER技術目標達成のための支援研究、②原型炉に向けたITER補完研究、③人材育成の3つです。ITERと同じ形で高い性能を持つプラズマ運転を行い、その成果のITERへ反映や、ITER計画をはじめとする核融合研究を主導する研究者・技術者の育成を行います。

Q:ITER機構職員募集は定期的に行われるのですか？

A:ITER機構職員の募集は、不定期に行われます。これは他の国際機関と同じです。およその目安として、1か月に1~2回の割合で募集があります。募集の期間は3週間~1か月程度です。

Q:日本の機器の分担について教えてください。

A:日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

Q:ITERはいつ完成するのですか？また、現在どこまで建設が進んでいますか？

A:2020年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。現時点で完成しているのは、PFコイル建屋と本部ビルです。トカマク建屋、組立建屋、クライオスタット組立建屋については現在建設中で、特にトカマク建屋については、基礎工事が完了しています。(※写真参照)



トカマク複合建屋の基礎工事(2014年9月)

以上

Plasma Conference 2014 展示会場の様子

